



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

NEWSLETTER No. 53



2021年2月発行

シンド農業大学（Tandojam）との技術移転協力に関する覚書を締結しました

CWS Japanでは日本の専門家の皆様とともに、慢性的な干ばつの影響が著しいパキスタン南部にて防災事業を行っています。水が無いことに加え、地下水においても土地特有の塩害によって、安全な飲み水を確保すること自体が大変な地域です。よって、当会のパートナー団体である国土防災技術株式会社様にも参画して頂き、衛星データを活用したリモートセンシングから地下水脈の特定、そして電気探査を活用した真水の探索を行い、該当地域の水源地開発がより効果的になるように事業展開をしています。リモートセンシングと電気探査といった技術はパキスタンでも使われていますが、その組み合わせによる干ばつ対策はパキスタンにおいて前例が無く、現地行政からも今後の水源地開発のモデルケースとして期待されています。

CWS Japanは、防災における国際協力において、このような技術移転を通じて、当該国の能力強化に繋げることが大事だと考えています。最終的にはパキスタン国内において適正な技術が普及し、「自分の土地は自分で守る」という自助や互助の力を上げることが重要です。その為には、技術を現地に適正化しながら普及する仕組みも必要です。このような背景から、この度、技術移転先としてシンド農業大学との覚書を結ぶに至りました。シンド農業大学は歴史のある農業大学で、研究と実践を通じ、地域に根付いた技術の普及を推進しています。度重なる干ばつによって深刻な被害を受けているパキスタン・シンド州のレジリエンスを高める為のパートナーシップを目指しています。

(文：事務局長 小美野剛)



(シンド農業大学の関係者とともに)

※2019年12月の訪問時撮影)

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook
twitter
instagramでも
情報発信しています！

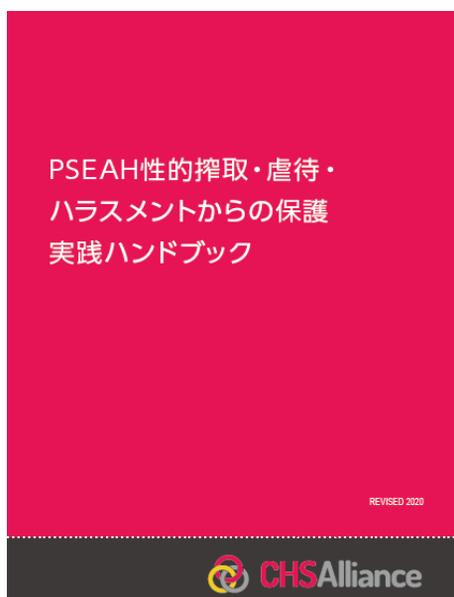
最後のページを
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

✉ public@cwsjapan.jp
☎ 03-6457-6840

PSEAHハンドブック日本語版が 発行されました

この度、PSEAH実践ハンドブック日本語版が発行されることとなりました。日本語版作成に際しては、CWS Japanも主体的に関わり、このように、多くの方に読んで頂く機会に繋がったことを嬉しく思います。なお、一般公開に関しては現在調整中のため、詳細情報については追ってお知らせいたします。



(PSEAH実践ハンドブックの表紙)

ところで、みなさんは「PSEAH」という言葉を聞いたことがありますか。まだ日本では馴染みのない言葉かもしれません。「性的搾取・虐待・ハラスメントからの保護 (Protection from Sexual Exploitation Abuse and Harassment)」という意味で、支援現場における性的な不正行為に対する取り組みです。

古くは1990年代より国連平和維持活動(PKO)職員による性的不正行為が報告されており、人道支援業界として長年取り組んでいる課題です。2010年に発生した中米ハイチの大地震で支援を行った大手国際NGOの職員による被災者に対する性的搾取が2018年に発覚した際は、人道支援関係者に大きな衝撃を与え、改めてこの問題に取り組む国際的機運が高まりました。

支援の現場では、脆弱な立場に置かれている被災者や難民に対し、支援者として影響力は非常に大きく、こうした力関係の不均衡を利用した不正行為が、残念ながらたびたび発生します。具体的に例えば、支援物資の提供と引き換えに性的サービスや関係性を、支援者が迫るような行為がこれにあたります。同様に、支援者が商業的性サービスを受けることや、合法だとしても未成年者と婚姻関係を持つことは、性的搾取に該当する可能性が非常に高いです。また、支援とは関係のない個人的な情報を求めるなど、支援者自身は「搾取」だと意識していない言動でも、被災者を傷付ける場合もあります。

こうした事例は、決して遠い海外で起こっただけではなく、東日本大震災や熊本地震など日本の近年の災害支援でも該当する事例が報告されています。しかし、災害支援は善意の行為であり、そんなことは起こるはずがないという先入観や、被災地のマイナスイメージを助長しかねないとのことから、なかなか表面化されないことが多くあります。

性的不正行為が起こるはずがないと思込むのではなく、PSEAHにおいては、性的不正行為がおこる可能性を組織および個人のレベルでも軽減することだけではなく、不幸にも発生してしまった場合は、これを迅速に把握し、その被害者/サバイバーに必要な支援を提供し、不正行為者を厳格に処分し、再発を抑制する対策を講じることまでが含まれます。被災者に対する支援を提供するだけでなく、PSEAHのような取り組みを積極的に行うことも人道支援を実施する団体の責任なのです。

CWS Japanは、職員採用の際にPSEAHに関する誓約への署名を求めるなど、団体および職員による性的不正行為に対して厳正に取り組んでいるだけでなく、2021年2月に発行された日本版PSEAH実践ガイドラインの監修にも関わり、積極的に日本におけるPSEAHの普及に努めています。より責任ある人道支援に対する、みなさまのご理解と応援を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(文：プログラム・マネージャー：
五十嵐 豪)

NGO2030主催第3回ぶっちゃけ対談に登壇しました

2020年12月22日にオンライン開催された「NGO2030～ともに考える国際協力のいまとこれから～Vol.3」にCWS Japan職員の西澤紫乃が登壇しました。

「NGO2030」はCWS Japanも参加しているJANICワーキンググループの一つで、これまでのようにNGOや国連機関だけでなく、民間企業や学生団体など国際協力の実践者とその方法が多様化する現代において、NGOという存在が担う役割は何かを議論し、これに向けて具体的にどのような取り組みができるかを試行しています。その取り組みの一つとして、国際協力業界を目指す人を主な対象として、NGO職員というキャリアを知る機会を提供することを目的として、2020年10月よりNGO2030に参加しているメンバーのキャリアを紹介しています。

第3回目は「国際協力NGOにおける経験と女性としてのキャリア形成」と銘打ち、NPO法人JENの理事・事務局長の木山啓子さんとともに西澤が登壇し、NGOキャリアについて「ぶっちゃけ対談」を行いました。NGOというキャリアの大先輩でもある木山さんの豊富な経験に対し、西澤はNGOキャリアではまだ若手ですが、これからの将来に対する率直な不安や期待を共有し、参加者にとって具体的にNGOのキャリアを考える良い機会になったのではないかと思います。また今回のテーマが「女性としてのキャリア形成」というものでしたが、結論からいうと「女性だから」と特別に意識する機会は少なく、女性・男性を問わず同等の期待と挑戦が待ち受けているのがNGOのキャリアなのではないかという印象

を受けました。つい最近も男女の社会的格差について考えさせられるような事案がありましたが、その点においてNGO業界では議論が進んでおり、キャリアとしての魅力の一つとなっているのではないかと思います。

CWS Japanでは、コロナ禍への対策の一つとして職員のリモートワークが進みましたが、それぞれの生活様式やライフステージに配慮しつつ、男女を問わず多様な人材が活躍できる機会を提供できるように、正職員以外の働き方を積極的に取り入れる方向で考えています。直接的な支援以外でも、CWS Japanの団体としてのこうした取り組みをNGO2030のような機会を通じて広く紹介することで、より多様な人材が活躍できる社会を作ることに寄与していきたいと思います。

今後もNGO 2030は定期的にイベントを開催していく予定です。機会がありましたら、NGO2030のイベントにも参加してみてください。

(文：プログラム・マネージャー：五十嵐 豪)



(左：西澤、右：JEN理事・事務局長木山さん)



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！